



## 凍霜害被害が見られています！結実確保を優先した摘果作業を！

平年より10日程度進んでいた生態は、4月以降気温が低めに推移したことから少し停滞し、現在は平年より7～8日程度の進みと見込まれています。今年は開花期間中に降雨が続いたことから、黒星病孢子飛散量が増加することが懸念されます。今後の薬剤散布も引き続き散布ムラがないよう丁寧に散布しましょう。

また、4月中旬頃から最低気温がマイナスを記録する低温に数回遭遇していることから、凍霜害が発生しています（花芽の褐変が管内全域で確認されています）。さらに開花期間中の天候不順からマメコバチの活動も良くなかったため、まずはこまめな人工授粉により結実確保に努めましょう。

### 1. りんごの生態

今後の気温が平年並みに経過した場合、平年より7～8日程度早くなる見込みです。

管内 品種	開花日			満開日			落花日			備考
	和徳	藤崎	平年	和徳	藤崎	平年	和徳	藤崎	平年	
つがる	(5/2)	(5/3)	5/8	(5/7)	(5/8)	5/13	(5/11)	(5/12)	5/17	和徳管内：津賀野地区 藤崎管内：五林地区 を観測しています。 ※ ( )内は予想値 ※ 平年は当組合の平年値
ジョナ	4/29	4/30	5/7	(5/4)	(5/5)	5/12	(5/8)	(5/9)	5/16	
王林	4/26	4/28	5/6	(5/1)	(5/3)	5/11	(5/5)	(5/7)	5/15	
ふじ	(5/1)	(5/3)	5/9	(5/6)	(5/8)	5/13	(5/11)	(5/12)	5/18	

### 2. 薬剤散布

散布タイミングと防除時期を調整するため、落花10日と20日の間に特別散布を行いましょう！

散布量	散布時期	対象病虫害	基準薬剤及び調合順序	1000ℓ当りの薬量
2 開花直前 500L/10a	4/27～28頃	モニリア病・黒星病 ハマキムシ類	カサメ(F) 4,000倍 カスケード(乳) 4,000倍	1本(250cc) 1本(250cc)
3 落花直後 500L/10a	5/7～8頃	黒星病・斑点落葉病 ミダレカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ	ミギワ20(F) 4,000倍 チオノック(F) 500倍 カスケード(乳) 4,000倍	2本(250cc) 1本(2ℓ) 1本(250cc)
4 落花10日後 500L/10a	5/17～18頃	黒星病・斑点落葉病 ミダレカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ	ユニックス(顆水) 2,000倍 ジマンダイセン(水) 600倍 クレフノン(水) 100倍	2袋(1kg) 1袋(1.67kg) 1袋(10kg)
特別散布	5/27～28		チオノック(F) 500倍 (エルサン(水) 1,000倍)	1本(2ℓ) (1袋(1kg))
5 落花20日後 500L/10a	6/6～7頃	黒星病・炭そ病 すす斑・すす点病 クワコナカイガラムシ モモシクイガ	デラン(F) 1,500倍 スプラサイド(水) 1,500倍 クレフノン(水) 100倍	2本(666cc) 1袋(667g) 1袋(10kg)

散布終了!

### 3. まずは結実確保から！

4月中旬頃からの、断続的な低温の影響と思われる花器の損傷（雌しべの褐変）が確認されています。また開花期間中、天候不順が続いたことからマメコバチの活動もあまりよくありませんでした。こまめな人工授粉を行い、まずは結実確保に努めましょう。

#### ○凍霜害に対する技術対策

- (1) 被害が確認された園地では、一輪摘花を避ける。
- (2) ガク立ちがはっきりしてから摘果を行う。
- (3) 着果量が不足のものは、障害が確認できるまで仕上げ摘果は行わない。
- (4) さびなどの障害果は、被害後3～4週間経ってから現れたりするので、仕上げ摘果後も園地を見回り程度がひどい場合は摘果する。
- (5) 着果量不足の樹には追肥を控える。